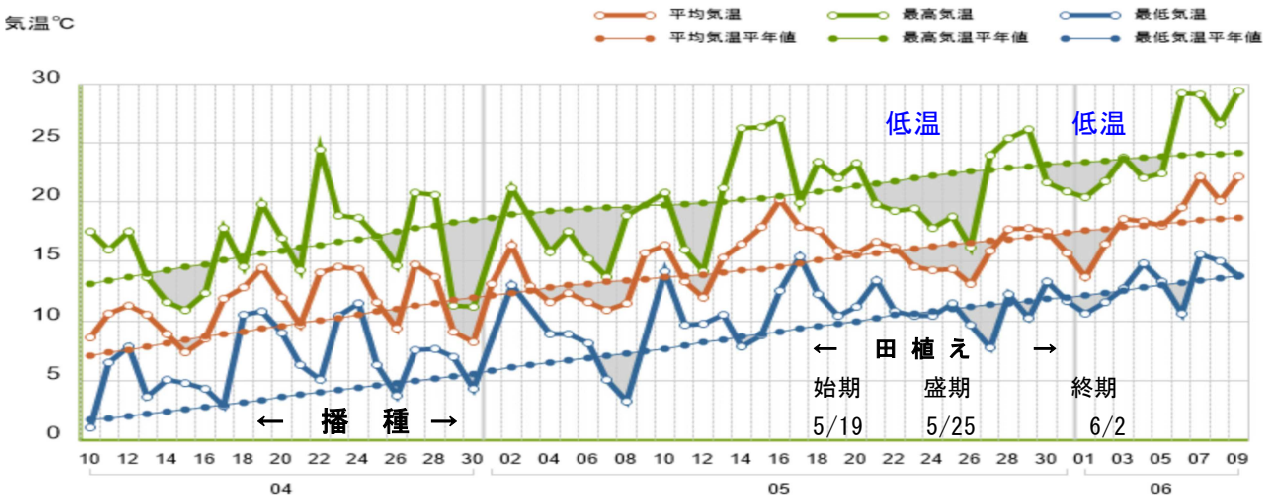
雄勝地域の 稲作だより

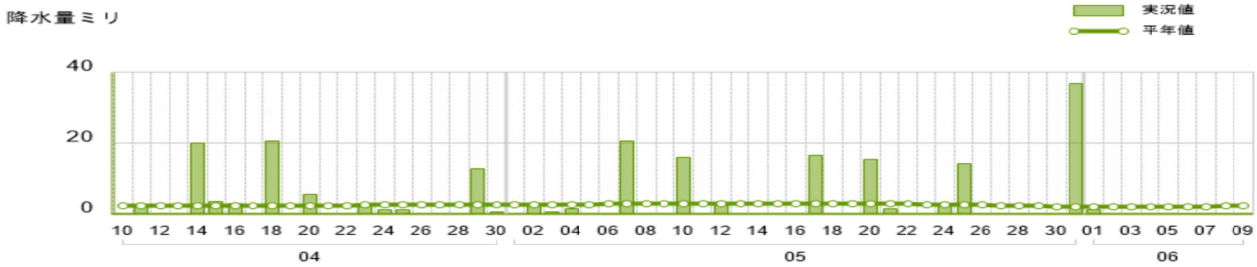
令和7年6月10日発行
雄勝地域振興局農林部
農業振興普及課
TEL 0183-73-5180
FAX 0183-72-6897

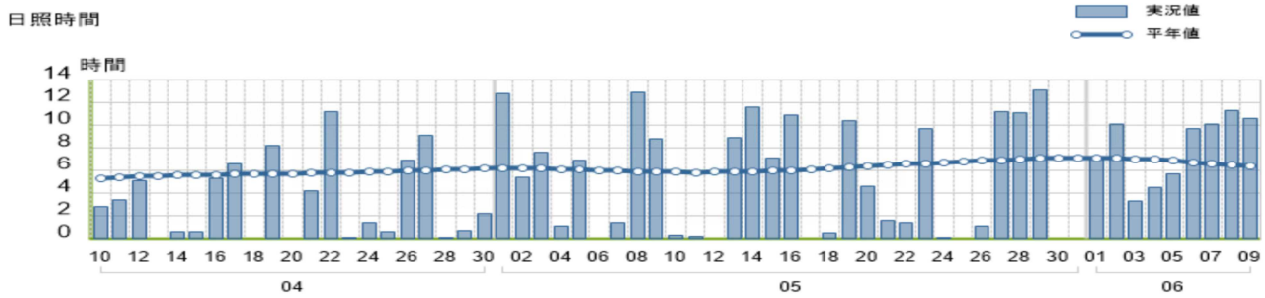
目標茎数を確保したら、速やかに中干しの実施を！

分げつの確保状況に応じて適切な水管理をしましょう

【これまでの気象経過】（アメダス湯沢：令和７年４月10日～６月９日）







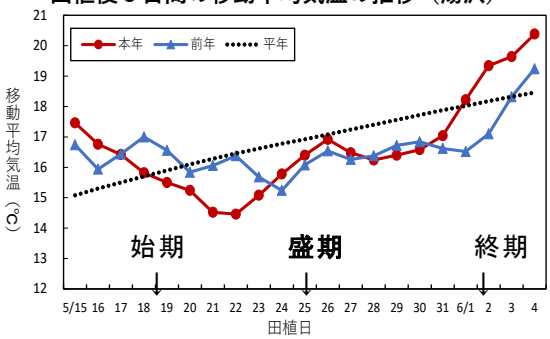
	平均気温（平年差）	積算降水量（平年比）	積算日照時間（平年比）
５月上旬	13.3℃（+0.1℃）	41.0mm（ 157%）	57.2h（ 90%）
５月中旬	16.2℃（+2.1℃）	35.0mm（ 123%）	54.2h（100%）
５月下旬	15.8℃（± 0℃）	55.0mm（ 185%）	49.3h（ 71%）
６月上旬	18.8℃（+0.9℃）	1.0mm （ 6%）	72.5h（108%）

【雄勝管内の作業・生育概況】

○**雄勝管内の田植え作業**の始期（５％）は５月19日（平年同）、盛期（50％）は５月25日（平年同）、終期（95％）は６月２日（平年より２日遅い）となり、平年よりも田植え作業期間が長くなりました。

○**６月10日の定点調査**（あきたこまち８カ所）では、草丈23.2cm（平年比92％）、茎数116本/㎡（同比97％）、葉数5.4葉（同差-0.6葉）となっています。平年に比べ、葉数の進展が遅れていることもあり、茎数も平年よりやや少なくなったと推察されます。
また、**田植え盛期から終期にかけて、気温の低い日が多く、周期的な降雨により日照時間が少ない日が多かったため**、この時期に田植えが行われたほ場では活着や初期生育がやや遅れ気味になっています。

田植後５日間の移動平均気温の推移（湯沢）



水稲定点調査結果（６月10日実施）			
	草丈(cm)	茎数(本/㎡)	葉数(葉)
本　年	23.2	116	5.4
平　年	25.1	119	6.0
平年比	92%	97%	-0.6
前　年	26.6	104	6.3
前年比	87%	111%	-0.9

※各数値はあきたこまち８カ所の平均値
※平年値は過去10年の平均値

【当面の主要な技術対策】

１　今後の水管理

高品質・良食味米の安定生産には、強勢茎（主茎及び第３～６節の１次分げつ）主体に穂数を確保することが重要です。

（１）分げつの発生は、日平均水温23～25℃で、日気温較差を大きくすることで促進されるため、**活着後は浅水管理を徹底**して、水温と地温を高めて日気温較差を大きくします。水田への入水は、用水温と水田水温の差が小さい早朝か夜間の時間帯に実施します。

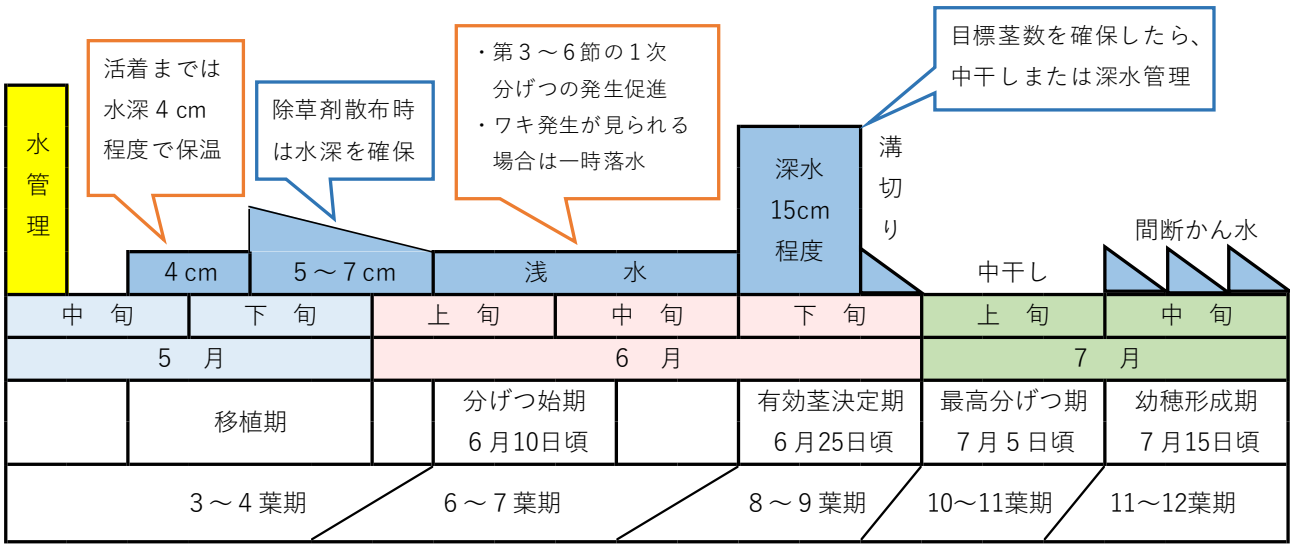
（２）高温が続き、藻類や表層剥離、土壌の異常還元（ワキ）が発生した場合は、初期生育が抑制されます。対策として、気温の低い早朝や雨の日に一時落水し、水の入れ替えを実施しましょう。除草剤で藻類や表層剥離を防除する場合は、発生初期（発生程度がほ場の30％未満）までに、モゲトン粒剤を２～３kg/10a散布、またはモゲトンジャンボを20個（１kg）/10a散布しましょう。

（３）**目標茎数（㎡当たり茎数420本、60株/坪植えで１株23本程度、70株/坪植えで１株21本程度）**を確保するか、主茎の葉数が8.1～9.0葉期で第６葉節から分げつが発生した時点で、中干しを開始します。

（４）中干しは、７～10日間程度とし、ほ場に軽く亀裂が入り足跡のつく程度とします。中干し始めに**溝切り**をすることで、水の回りが早くなるため、水不足が心配されるようなところでは、効率的な水管理を行うことができます。また、排水も素早く行うことができ、中干し効果が高まるほか、登熟後半まで水管理が可能となるため、根の活力維持や、登熟歩合の向上に繋がります。

＜深水処理による分げつ抑制＞

水深が確保できるほ場では、主茎葉数が8.5～9.5葉期に水深を15cm程度に保つことで、無効分げつの発生抑制が可能です。なお、深水処理後は慣行栽培と同様に中干しを行います。



２　水田内の雑草対策（中・後期除草剤）

ノビエやカヤツリグサ科雑草（ホタルイ類）が水田内で繁茂すると、斑点米カメムシ類による被害を助長します。ほ場内をよく観察し、雑草が発生しているほ場では、中・後期除草剤を早めに使用するなど、対策には万全を期してください。

残草の種類	除草剤名	使用時期（移植水稲）
ノビエのみ	クリンチャー１キロ粒剤	使用量1kg/10a… 移植後７日～ノビエ４葉期まで 使用量1.5kg/10a… 移植後25日～ノビエ５葉期まで
	ヒエクリーン１キロ粒剤	移植後15日～ノビエ４葉期まで
ホタルイ、コナギ、オモダカ等（ノビエ除く）	バイスコープ１キロ粒剤/ルナクロス１キロ粒剤	移植後14日～35日（ホタルイ10cmまで） ※ノビエに有効な前処理剤との体系で使用する
ノビエ及びホタルイ、コナギ、オモダカ等	ウィードコア１キロ粒剤	移植後14日～ノビエ４葉期まで
	ツイゲキ豆つぶ250	移植後14日～ノビエ４葉期まで
	フォローアップ１キロ粒剤/ワイドアタックＤ１キロ粒剤	移植後25日～ノビエ３葉期まで
	クリンチャーバスME液剤	移植後25日～ノビエ５葉期まで 使用量1000ml/10a　散布液量70～100L/10a

（令和７年度版　秋田県農作物病害虫・雑草防除基準より抜粋）

【農薬危害防止運動実施中！】

- 秋田県では、令和７年６月１日から８月31日までを「農薬危害防止運動」の実施期間として、農薬の安全かつ適正な使用及び管理の徹底を呼びかけています。
- 農薬によって使用量や希釈倍数、使用時期や使用方法等が異なりますので、使用前には必ずラベルをよく読み、使用基準を守りましょう。
- 散布作業にあたっては、周辺作物の作付状況を確認し、ドリフトには十分注意しましょう。

令和7年度秋田県農薬危害防止運動テーマ

「使用前、周囲よく見て　ラベル見て」

次号の発行は６月下旬の予定です。